



# 目 次

訳 者 の 序	i
編 集 者 の 序	iii
第十三版の序	iv
I. 序 説	1
1. 統計学の範囲	1
2. 一般的方法, 統計量の算出	5
3. よい統計量の条件	8
4. 本書の内容	11
5. 歴史的注釈	14
II. 図 表	18
7.	18
8. 時間図表, 成長率, 相対成長率	18
9. 相 関 図 表	22
10. 頻度分布図	25
10.1 頻度の変換	28
III. 分 布	32
11.	32
12. 正 規 分 布	33
13. 正規分布のあてはめ	35
14. 正規性からの隔たりの検定	40
15. 不連続な分布	42
16. Poisson 系列の小標本	45
17. 標本の中の有機体の有無	48
18. 二 項 分 布	50
19. 二項系列の小標本	54
付録 記号と公式	56

IV. 適合度, 独立性ならびに均一性の検定	62
20. $\chi^2$ 分布	62
21. 独立性の検定, 分割表	67
21.01 連続性のための Yates の補正	73
21.02 $2 \times 2$ 表の正確な処理法	75
21.03 $\chi^2$ 分布に基づく正確な検定	77
21.1 有意性検定における確率の結合	78
22. $\chi^2$ の成分への分割	79
V. 平均, 平均の差および回帰係数に関する有意性検定	90
23. 平均の標準誤差	90
24. 標本平均の有意性	93
24.1 2つの平均の比較	96
25. 回帰係数	101
26. 回帰係数の抽出誤差	103
26.1 回帰係数の比較	110
26.2 平均の比と回帰係数の比	111
27. 回帰曲線のあてはめ	115
28. あてはめのための計算法	119
28.1 多項式の値の計算	121
29. いくつかの独立変量に対する回帰	123
29.1 独立変量の省略	129
29.2 頻度が等しくない場合の多項式のあてはめ	131
VI. 相関係数	138
30.	138
31. 相関係数の統計的推定	144
32. 偏相関	147
33. 相関係数の精度	151
34. 観測上の相関係数の有意性	152
35. 相関係数の変換	155
36. 系統的誤差	161
37. 系列の間の相関	162

VII. 級内相関と分散分析	167
38.	167
39. 級内相関係数の抽出誤差	170
40. 分散分析の1例としての級内相関	175
41. 分散の差に関する有意性検定	178
42. 3個以上の成分への分散分析	184
VIII. 分散分析の応用	198
43.	198
44. 回帰式の適合度	198
45. “相関比” $\eta$	203
46. Blakeman の判定法	204
47. 重相関係数の有意性	205
48. 農事試験の技術	207
49. ラテン方格	211
49.1 共分散分析	214
49.2 多重測定による群の判別, 適当な点数	223
49.3 推定した点数の精度	231
IX. 統計的推定の原理	235
50.	235
51. 連関の証拠の有意性	235
52. 連関因子をもつ子孫から成る母集団の規定	236
53. 一致統計量の多様性	238
54. 適合度検定による統計量の比較	240
55. 統計量の抽出分散	241
56. 有効統計量の比較	247
57. 食違いの測度 $\chi^2$ の解釈	249
57.1 不完全なデータ	252
57.2 情報量, 計画と精度	255
57.3 推定に利用する証拠の均一性の検定	259
58. 原理の要約	262

補 注	264
データと方法に関する引用文献	306
著者の論文目録	310
索引	320

## 付 表

第 I 表	標準偏差で測った正規分布の偏差 $x$ の表	61
第 II 表	$P$ の小さな値に対する $x$ の表	61
第 III 表	$\chi^2$ の表	88
第 IV 表	$t$ の表	137
第 V.A 表	種々の有意水準に対する相関係数の限界値	165
第 V.B 表	0 から 3 までの $z$ の値に対する $r$ の表	166
第 VI 表	$z$ の表	192

